

「主体的に追求し，考える力を高める子の育成」

～思考が深まる「新聞活用」の在り方～

長岡市立川崎小学校

1 N I E実践のねらい

N I E実践1年目に取り組んだ「新聞に親しむ活動」や「新聞を活用した授業実践」を通して，身の回りの出来事や社会の動きなどに対して視野を広げて物事を考えようとする子どもたちの姿が見られるようになってきた。また，新聞という情報の宝庫を授業の中で活用することにより，追求課題に対して主体的に考えようとする学習意欲もさらに高まってきている。身近で適時性のある新聞の情報は，子どもたちの考えをより広げたり，学習意欲を高めたりすることに有効であることが分かった。

そこで，N I E実践2年目となる今年度は，単元や授業において，どのタイミングで，どのような新聞記事を提示すると，より主体的に学び，学習課題に対する自分の考えを確かにしたり，深めたりする子どもたちの姿を具現することができるのかということについて明らかにしていきたいと考えた。

2 本年度実践の概要

(1) 新聞を活用した単元・授業づくり

授業研究や日常の授業を通して，「どんな教材で」「どんな学習場面で」「どのように新聞を活用する」と，子どもが主体的に追求し，自分の考えを深めていくことができるのかを考え，単元や授業を構想し，実践した。

【単元】

- ・ 新聞を活用した教材を開発し，単元を構想する。
- ・ どんな学習場面でどのように新聞を活用していくと，子どもが主体的に追求し，自らの思考を深めていくことができるのかを提案し，実践する。

【本時】（本時の中では，新聞活用場面を一つ以上設定する）

- ・ 主体的な追求を促す学習課題設定段階における新聞活用について提案し，実践する。
- ・ 学習課題について自分の考えをもつ段階における新聞活用について提案し，実践する。
- ・ 焦点化した「◎（追求問題）」の解決場面における新聞活用について提案し，実践する。

(2) 「NIEタイム」【毎週水曜日・朝活動（15分間）】の実施

各学年ごとに「NIEタイム」の計画書を作成し、実施した。

① 年間指導計画の中から、新聞を活用して学習を進めることができそうな教科と、学習内容を選び出す。

② 「時期」「学習内容」「準備するもの」を「NIEタイム年間指導予定表」に書き込む。

③ 学年・学級の掲示板に「NIEコーナー」を設け、NIEタイムの活動や新聞を使った活動の取組を、子どもが常に意識していけるようにしていく。

(3)年 「NIEタイム」計画書

- ◇ 「NIEタイム」：毎週水曜日の朝活動に実施する。6月22日(水)からスタート。
- ◇ 時間は8：15～8：30の15分間を基本とする。
- ◇ 「NIEタイム」で取り組んだこと、学習したことなどを、学年の掲示版などに掲示していく。

「NIEタイム」実践年間活動計画

◆学習内容 【国語】	◆学習内容 【算数】	◆学習内容 【社会】
<ul style="list-style-type: none"> 漢字のへんづくり探し 漢字の自読み訓練探し 国語辞典で意味調べ おススメ記事・写真集め 見出しづくり 投稿欄などの記事を読んで感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ことわざコーナーを読む。 新聞読み聞かせクイズ 漫画の吹き出しの中身を考える。 子ども投稿記事などを視察する。 新聞スクラップ 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな数探し グラフの読み取り 地域の各所の記事集め 長岡市の各地の記事集め

◆年間指導予定表	学習内容	準備するもの
6月	① 漢字のへんづくり探し ② 漢字の自読み訓練探し	
7月	① 国語辞典で意味調べ ② 地域の記事の読み聞かせ ③ 長岡市の各地の記事集め	・感想プリント ・長岡市白鳥地区入りの新聞を読む 白紙
8月	① グラフの読み取り	・いろいろなグラフの記事
9月	① 見出しづくり ② 新聞読み聞かせクイズ ③ 子ども投稿記事などを視察する。 ④ 投稿欄などの記事を読んで感想を書く。	・見出しを組んだ記事 ・感想プリント ・感想プリント
10月	① 大きな数探し ② ことわざコーナーを読む。 ③ 漫画の吹き出しの中身を考える。 ④ おススメ記事・写真集め	・得意出しプリント ・新聞記事を貼る白紙
11月	① 国語辞典で意味調べ ② おススメ記事・写真集め ③ 新聞スクラップ作り パート1 ④ 新聞スクラップ作り パート2	・念からほ継続して活動する。 スクラップの発本 スクラップの用紙
12月	① 漢字のへんづくり探し ② 新聞読み聞かせクイズ ③ 投稿欄などの記事を読んで感想を書く。	・感想プリント

◆新聞コーナーを学年・学級の掲示版のどこかに作ってNIEタイムの活動や新聞を使った活動の取組を常に意識できるようにしたい。

3 実践例

新聞を活用した単元・授業づくり

- (1) 学年 5 学年
- (2) 教科 社会科
- (3) 単元名 「日本の工業～安達紙器と北越紀州製紙～」
- (4) 授業の実際

① 簡易担架レスキューボードが広く人々に使われていることを捉える子ども

前時では、一般的な担架と簡易担架レスキューボードを写真で比べた。子どもたちは、「サッカーの試合で普通の担架は見たことあるよ。」「レスキューボードは学校の体育館にあるのは見たことあるけど、他の人は知っているのかな。」と簡易担架レスキューボードが知られているのかを疑問



【簡易レスキューボードの売上累計と出荷場所を示した地図】

に感じていた。簡易担架レスキューボードのよさに注目するためには、広く人々に知られていることを理解する必要があった。

そこで、本時では「簡易担架レスキューボードの売上の累計」と「簡易担架レスキューボードの出荷場所と、全国で取り上げられている新聞記事」を提示した。売上累計から多くの台数が買われていること、出荷場所から全国に売られていること、新聞記事から全国で注目されていることを捉

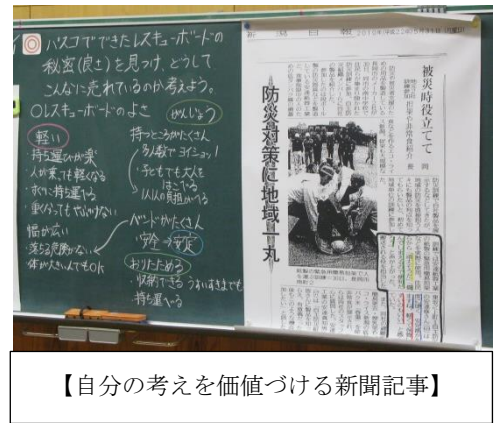


【実際に体験する活動の組織】

えた。子どもたちは「全国的に売れている。」や「全国展開している。」ということに気付いた。出荷地点だけだと、「〇〇県は出荷されていない。」「〇〇県は知られていないってことかな。」という発言があったため、地方紙や全国紙の新聞で取り上げられていることを示すことで、全国的に知られていることを理解することができた。その後、子どもたちから「知られるようになったのは、丈夫だからだ。」という発言があり、簡易担架レスキューボードのよさに注目するようになった。

② 新聞のインタビュー記事から実際に使っている人の体験を読み取り、自分の体験と結びつける子ども

自分たちが考えた簡易担架レスキューボードのよさを確かめるためには、どうすればよいかを問うと、「実際に使っている人はどうなのか」という意見が出た。そこで、「長岡市立南中学校で防災訓練をしている新聞記事」を提示した。新聞記事には、「運ぶ人」「運ばれている人」という複数の立場のインタビューが掲載されており、子どもたちが考えた簡易担架レスキュー



【自分の考えを価値づける新聞記事】

ボードのよさと新聞記事の内容を色で分けることにより、実際に使っている人の考えから、自分たちが考えた内容を確認なものとして価値付けることができた。また、「運ぶ人」「運ばれる人」の二つの立場によって簡易担架レスキューボードのよさは違ったり、立場は異なるが同じよさであったりするなど社会的事象の意味を追求する様子が見られた。

(5) 成果と課題

○ インタビュー記事を掲載している新聞を活用することで、実際に使っている人の考えがわかり、子どもたちの考えを確認することができた。また、複数の立場から簡易レスキューボードが「誰にでも使いやすい製品」であることを実感することができた。

◇ 提示したい新聞記事の大きさ（情報量）が大きい（多い）場合、子どもがその記事を読み取る時間を十分に確保しなければならない。授業の中でどの記事に注目してほしいかを教師がある程度、焦点化させて提示するとよい。

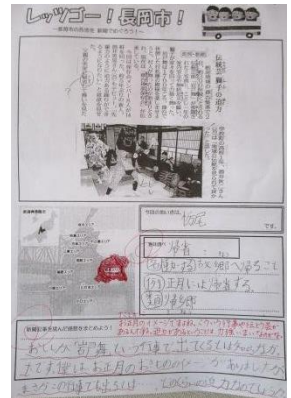
NIEタイムの実践①

- (1) 学 年 3 学年
- (2) 活動名 「レッツゴー！長岡！～新聞を読んで長岡市をめぐろう！～」
- (3) 新聞活用の実際

子どもたちに長岡市の地域について書かれた新聞記事を読ませたプリントを配付し、その地域の名前・場所を地図で確認した。新聞記事は、教師が解説しながら読み聞かせた。子どもたちは、それを聞きながら、分からない言葉の意味を調べたり、記事の感想をプリントに記述したりした。

この実践をする中で、子どもたちは、1学期の社会で学習した「もっと知りたい！長岡市」の内容について復習することができた。また、新たな情報を得たことで、長岡市の各地域の特色について理解を深めることができた。さらに、2学期の社会「今と昔の移り変わり」の学習と関連させることで、自分の地域以外の長岡市各地の昔から伝わる伝統行事や文化財について知ることができた。国語では、国語辞典を引くことが苦手な子どもが多かったが、意味調べを毎週行ったことで、子どもたちは、以前より国語辞典を上手に引けるようになってきている。

新聞記事の難しい言葉を簡易な言葉に置き換えながら教師が読むというスタイルで取り組んだため、新聞記事を読むことは無理なくできたが、自分自身で本誌を読み取るということに関しては、まだ3年生にとっては容易でない。今後、他の手立ても考え、子どもにとって新聞がさらに身近な存在になるようにしたい。



NIEタイムの実践②

- (1) 学 年 4 学年
- (2) 活動名 「都道府県を探そう！」
- (3) 新聞活用の実際

4年生の社会では、都道府県の位置や名称について学習する。これまでの都道府県の学習では、子どもに興味をもたせないまま小テストなどを繰り返し行い、理解させることが多かった。そこで、本実践では、都道府県が載っている新聞記事を繰り返し扱い、都道府県と関連付けながら指導した。そうすることで、より都道府県に興味をもちながら学習をすることができると考えた。

『◎Jリーグのチームはどここの都道府県にあるか。』

Jリーグが終盤に差し掛かってきた頃、算数の授業でJリーグに関する

記事に触れてきた子どもたちに、優勝や残留に関する内容が載っている記事を提示した。様々なチームがあることを確認した後、上記の追求課題を提示して活動を行った。



- 東京都や埼玉県は二つもチームがある！ずるい！
- J2があるから、きっとJ3もあるはずだ。調べてみたいな。
- 新潟県はアルビレックス一つしかチームがない！がんばって欲しい！

『◎ノーベル賞を取った日本人はどここの都道府県の出身なのか。』

子どもたちに、ノーベル賞を受賞した記事を提示する。その後、他にもノーベル賞を受賞した日本人がいることを紹介する。多くの日本人がノーベル賞を受賞したことを確認した後に、上記の追求課題を提示して活動を行った。



- 大阪府出身のノーベル賞を取った人が多いことが分かった。
- 新潟県からはまだ一人も出ていない。がんばって欲しい。

「○○県はどこ？」「○○県は前にも出てきたから簡単に塗れる。」など、周りの友達と関わりながら都道府県の位置や名称を確認していく姿が見られた。白地図に色を塗る活動が、記事によってやりにくい場合があった。Jリーグや地震・噴火など、多くの都道府県が関わる記事がない場合は、ノーベル賞受賞の活動のように補助資料を提示する必要があった。

NIEタイムの実践③

(1) 学 年 6 学年

(2) 活動名 「気になる人をスクラップしよう！」

(3) 新聞活用の実際

今夏はリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックで盛り上がった。そこで活躍した人たちも含め、日々の新聞記事の中で、気になる人がいたら切り抜いていこうと働きかけた。1回のNIEタイムで、2～3人の記事を切り抜くことができた。

切り抜きを貼り出した後で、自分が一番気



になる人を選び、その人について雑誌やインターネットで調べた。新聞記事で紹介されている人の多くは、その成績や業績が認められた陰に、少なからず挫折や涙ぐましい努力がある。新聞で取り上げられている人が、特別な人ではなく、あきらめずに努力したり、継続したりしたことで成功しているのだということを感じてほしいと思った。中学校進学を目前にし、「新しいことに挑戦する」「目標に向かって努力を惜しまない」心を育んでほしいと願った活動である。

4 成果と課題

- 「新聞を活用した単元・授業づくり」では、各学年、各教科それぞれの学習内容に基づき、「学習課題設定段階」「自分の考えをもつ段階」「◎（追求問題）」の解決場面の段階」の三つのいずれかの段階において新聞を活用する場面を取り入れて、授業を構想した。どの段階においても、「学習のねらいに迫るためには、この新聞記事を提示する必要がある！」と、新聞を提示することに必然性をもたせることを意識した。新聞記事を活用した授業の実践を通して、学習課題に対する自分の考えをより確かなものとしていく子どもの姿が見られた。

	教科	単元名	新聞活用の場面		
			課題設定	考えをもつ	課題解決
1 学年	国語	「新1年生に川崎小新聞をプレゼントしよう」			○
	算数	「かたち」	○		
	国語	「むかしばなしがいっぱい」			○
2 学年	国語	「お手紙～お気に入りの物語を紹介しよう～」			○
	学活	「インフルエンザに気を付けよう」	○	○	
3 学年	社会	「店で働く人と仕事」	○		○
	外国語	「What's this?～キャラクタークイズ大会を開こう!～」	○	○	
4 学年	道徳	「友達とたがいに理解し合うには」	○		
	算数	「1けたでわるわり算」	○		
5 学年	社会	「日本の工業～安達紙器と北越紀州製紙～」		○	○
	国語	「新聞を読もう」	○	○	○
6 学年	保健体育	「病気の予防」	○	○	
	総合	「人生の先輩に学ぶ～これからの自分の生き方を考える～」	○	○	○

- 全校で一斉にN I Eタイムに取り組んだことにより、学年に応じた新聞活用の内容を教師同士が把握したり、子どもたち自身も各学年の掲示コーナーを見ながら、新聞に親しむ他の学年の様子を知ったりすることができた。
- ◇ 単元・授業のねらいに迫るために活用したい新聞記事を見付けることが難しかった。授業者が「どんな新聞記事を探しているのか」を全職員で把握して、ファイリング（蓄積）するなどの手立てが必要であった。